



Title	国立試験研究機関における農業経営に関する研究課題一覧：昭和42年度および51年度について
Author(s)	佐藤, 了
Description	研究資料
Citation	農業経営研究, 4, 155-174
Issue Date	1977-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36365
Type	departmental bulletin paper
File Information	4_155-174.pdf



〔研究資料〕

国立試験研究機関における 農業経営に関する研究課題一覧

— 昭和42年度および51年度について —

佐 藤 了

1. はしがき
2. 研究課題の分野別分布状況
3. 研究課題一覧
4. 全体を通じて

1 はしがき

通常、われわれが特定の研究課題を設定しようとする時、少なくとも次の二点に関心を払うであろう。その一つはとりあげようとする問題の実態的な根拠についてである。特定の問題を組上にする場合にその実態的な吟味なしになされるならば、いかに問題意識をとぎすましたとしても単なる観念的な知的遊戯に墮する危険性があることはしばしば指摘されていることである。「概念分析それ自体から実在は導き出しえない」とされるゆえんである。

いま一つは、設定しようとする課題に関連して既存の研究のサーベイを行うことである。そのポイントについていかなる研究が積みあげられ、どの部分がどこまで解明されているのか、残されている課題はなにか、という点である。つまり既存の研究の俯瞰が必要とされる。

前者のポイントに関しては実態調査分析論などのファクト・ファインディングに関する方法論的研究がその鍵をなしておろう。また後者については研究課題のみならず、その方法、手順さらには対象・素材にまで幅広く吟味を加える必要があろう。だが研究をとりすすめていく過程で、そういった研究課題設定以前の諸吟味を狭い範囲で打ち切ってしまうのではないかと、自分の研究は他の諸研究との関連でどのように位置づけられるのか、といった疑念にかられることも少なくない。

そこで、ここでは農業経営研究の分野を専攻している現役の研究者がどのような課題を設定して研究にとりくんでいるのか、を素朴に問いかけてみることにした。もとより研究課題だけをとりにあげることには各種の制約がある。しかし、われわれが何を研究課題にするか、あるいは自分の研究課題に関連する諸研究の所在を問う場合にこの試みも一つの手懸りになると考えられる。

対象としたのは昭和42年度、51年度に国立試験研究機関でとりくまれた農業経営研究課題の一覧である。当初、都道府県の試験研究機関の研究課題をも対象にするつもりであったが、資料の制約上それを断念した。しかし、ここで対象とする国立試験研究機関の農業経営研究はわが国のこの分野全体からみると一部分であるとはいえ、分厚い研究者集団が一定の組織性を発揮しつつ問題解明にとりくんでいるとすれば、この分野の動向に少なからぬ影響を与えているとみられる。

なお、ここでは研究課題にのみ着目するので、以下の記述はその範囲での単なる素描にとどまることを再度お断りしておきたい。

2 研究課題の分野別分布状況

第1表は、昭和42年度、51年度に国立試験研究機関でとりくまれた経営研究課題についてその分野別分布状況をみるために、資料末尾に掲げた「(参考)分類指標項目一覧表」に準拠して分類したものである。⁽¹⁾これによるとおよそ以下のような特徴が明らかになる。

まず研究分野を経営方式、組織化等に「大分類」した結果に着目すると、研究課題数がもっとも多く分布するのは経営方式に関する研究であるが、それ以下の順位が両年度では入れかわりがみられる。42年度は経営方式、農村生活、地域性等々の順になっているが、51年度では経営方式、組織化、地域開発、農村生活、市場対応の順である。とくに組織化に関する課題は経営方式の約半数を占めるにいたり、これと地域開発、市場対応に関する課題の増加が、地域性と農村生活の減少を上まわって、全体の課題数を104から123課題と引きあげている。

次に研究の素材・対象としてはいかなるものが選ばれているかをみると、42年度の場合は特定の作目や地域を設定しない「一般」がもっとも多く、次いで水田作、酪農、畑作の順になっている。これに対して51年度の場合は露地野菜、一般、水

＜第 1 表＞ 研究課題と研究対象の相関分布

研究 研究 対 象 課題	昭和 4 2 年度						昭和 5 1 年度					
	経営 方式	組 織 化	市 場 対 応	地 域 性	地 域 開 発	農 村 生 活	経営 方式	組 織 化	市 場 対 応	地 域 性	地 域 開 発	農 村 生 活
一 般	9			11			11	2			1	1
水 田 作	8	5			3		7	4			2	
畑 作	6	2					4	2			1	
果 樹	4		1				2	1	4			
露 地 野 菜							2	4	8	1	1	
花 き ・ 植 木												
施 設 園 芸	1						2	9				
酪 農	7	2					5	3			1	
肉 用 牛	3						9			1		
中 ・ 小 家 畜	1	1	1				2					4
飼 料 作												
草 地	2											
養 蚕	1											
都 市 農 業					1	1					1	
都 市 近 郊											3	
平 地 農 村											1	7
農 山 村					1						1	1
山 村	2				1	1					2	
外 国												
そ の 他	6				4	19	6		1		3	2
小 計	50	10	2	11	10	21	50	25	13	2	17	15
合 計	1 0 4						1 2 3					

注 1 農林省農業技術研究所経営土地利用部「農業経営および農村生活の研究の動向と課題」（昭和 4 2 年度）ならびに、同部、農事試験場、国立地域農試の経営部、経営研究室、作業技術部等の「研究成果（昭和 5 0 年度）と研究計画（昭和 5 1 年度）」より作成。

なお、ここでいう「課題」とは「新規」および「継続」の課題をさし、「完了」と「中止」の課題は省いている。

注 2 以下の一覧表も上記資料に依拠して作成したものである。

田作、施設園芸、肉用牛、酪農の順になっていて、10年前とは大きく様相を異にしている。

ところで、それぞれの研究分野ではどのような素材・対象を設定しているのだろうか。経営方式に関する研究の場合は、両年度ともほぼ網羅的に各作目にわたる研究が行われているが、肉用牛を対象とする研究の増加や露地野菜についての課題設定があらわれるなどの変化が看過できない。（なお、51年度の草地、養蚕に関する研究は、前者については草地試験場で2課題、後者については蚕糸試験場で4課題⁽²⁾設定されている。）

組織化については、42年度の場合、水田、畑作、酪農、中小家畜についてとりくまれたが、51年度の場合はこれに施設園芸、露地野菜、果樹などが加わって対象を拡大している。

市場対象に関しては前述したように大きく課題数を増加させているが、それは果樹、露地野菜に関するものに限った傾向で、他の対象についての市場対応に関する研究はほとんど皆無である。

地域開発に関しては、42年度の場合課題数も少なく、対象も作目としては水田作、地帯としては都市農業、農山村、山村に限られているが、51年度には課題数の増加とともに対象も若干拡大している。（なお、地域性と農村生活については次の項でふれるので、ここでは割愛する。）

以上のような全体的な分布状況をみただけでもこの分野の研究課題設定に少なからぬ変化がみとめられる。次にその変化の内容がどういうもので、51年度現在設定されている課題群の上にどのような特徴があるのか、この2点にしばって検討していくことにする。

3 研究課題一覧

(1) 経営方式

第2表および第3表によって、昭和42年度と51年度の「経営方式」の「中分類」および研究課題に着目すると、総数としては変化がないこの分野でも次のような動向を内包している。

その一つは、「経営計算」「経営設計」とくに前者の課題数増加が著しいことで

ある。しかも42年度は「農業経営および土地利用の研究のための電子計算機プログラムの開発」や「農業会計の研究」にみられるように、どちらかという研究方法にウエイトをかけた課題設定が少なくないが、51年度は概してより具体的に実態分析をめざした設定が増加している。

二つは、「労働手段」の課題数が、11課題から1課題であるから、まさに激減していることである。42年度の課題内容をみると、「技術体系の経済性」「技術体系の経営的研究」「機械化体系の研究」などにみられるように、トラクター化を中心とした労働手段の高度化が経営経済的にみてどう評価すべきかという点に関心が集中していたと思われるが、そのような問題意識は51年度の課題群をみるかぎりではめっきり減っているようである。

これは現実の過程で農業機械化が急速に進展してきたため、それらの技術の経済性を云々するよりも、それをいかに使うか、いかなる組織をくんで利用・運営するかという方向に問題の焦点が移ってきたためであろう。ともあれ、労働手段それ自体に視点をすえた研究課題の設定がきわめて少ないかたちになってきていると推測される。

三つは、「経営構造」「生産構造」視点からの課題設定がかなり増加していることである。これは42年度の分類方法が51年度と若干ズレるためでもあろうが、そういう資料上の制約を省いたとしても増加傾向あるいは純化傾向がみとめられる。42年度の場合、「近代化方式」「成立条件」などを直截に問うかたちのものが多いが、51年度ではそれが一步踏み込んで「構造」にとり組むようになっていると推察される。

(2) 組織化

「組織化」に分類された研究課題の細目をみていくと、42年度は「共同利用」あるいは「協業化」がほとんどを占めるが、51年度の場合は「生産団地」が25課題中12課題を占めるようになっている。

これは各機関にわたるプロジェクト研究の増加によるところが大きいが、対象とする範囲が地理的にも生産から流通へという商品の流れの側面からみても拡大しているところに特徴がある。もっとも、「経営集団組織化」などの場合は、「共同利

用」や「協業化」とあまり内容的な差異のないものも含まれ、全体としては個別経営—小集団—大集団というように重層的な分野になってきているようである。

しかし、「受委託組織」を前面に打ち出している事例が少ないのは、現実のこの方式の進行からみていささか少ないような印象を受ける。「組織化」の一形態として、あるいは「経営方式」の一形態として位置づけられている事例もみうけられるが、全体として稲作に関する課題設定がウィークになってきていることの反映とみられる。

(3) 市場対応

「市場対応」に分類される課題は、42年度はわずか2課題であるから、この分野が本格化するのとはごく最近のことと言ってよいであろう。51年度は「産地形成」が6課題、「市場流通機構」が4、「集出荷組織」が2課題となって、その課題内容をみても「流通組織機能」、「流通再編」、「マーケティング活動」というように多様化してきている。

ただし、とりあげられている対象・素材が前述したようにもっぱら果樹、そさい、一部畑作物であり、全般化していない段階にある。とくに昭和51年度は家畜部門についての課題設定がない。

(4) 地域性と地域開発

「地域性」に分類された課題数は、42年度の11から51年度の3課題へと減少している。その内訳けをみると、42年度の場合、「地域農業の動向予測と農業経営の対応に関する研究」が9場所でとりくまれており、このプロジェクト研究が終了したのが減少の主要内容である。

しかし、農業の地域差は現実にはますます拡大し、地域農業のあり方が様々な意味で問われている現在、「地域動向」や「立地配置」をとりあげる事例が少なくなったのとは反対に、「地域開発」、「地域計画」が「再編」あるいは「再開発」のかたちでとりあげられている。「再編」、「再開発」という場合、なにゆえに再び編成しなおし、開発しなおさねばならないかという研究の位置づけが興味を抱かせるところであるが、課題のみからはそれがうかがえない。

(5) 農 村 生 活

農業経営研究にとって経済的な観点からみれば、労働力の再生産過程にはかならない農家生活の諸過程が、具体的にどう行われているか、どのような社会的歴史的な環境の下でいかに営まれているかが重大な関心の一つであることは間違いない。その意味から「農村生活」に関連する研究課題についてもとりあげることにした。

一覧表によると、「生活環境」に分類される害虫発生や環境衛生面の研究課題数が4から7課題へと増加傾向にあるのに対し、農家の生活の社会的側面、婦人労働の役割あるいは家事労働の合理化といった問題や「いえ」ないしは村落構造などの歴史的側面をとりあげる「農村構造」が減少し、食品調理や自家調整食品の研究などはほぼ姿を消すにいたっている。

この分野の課題数減少の主要内容は生活それ自体に視点をすえた課題および社会的側面に視点を置いた課題の減少によるものであり、これに対して、農村生活の自然環境面を主として自然科学的に追求する課題が若干拡大している。

4 全体を通じて

以上、ごく簡単に各分野にそくしてその特徴を述べてきたが、さいごに全体を俯瞰して感じられるポイントをいくつか指摘したい。

まず第一に、いかなる方法的な準備がなされているかは別にして、課題設定の仕方が「設計・計画」論的な色彩がかなり強まってきているようにみうけられることである。それは、「経営設計」及び「地域計画」の分野の課題数拡大に典型的にあらわれているが、その他に分類された課題のなかにも、この傾向がつよまっていると推測される。

第二には、そのような全体動向にもかかわらず、とりくまれている課題は実に多岐に及んでおり、この分野が多元的な認識の集合体化しているという様相をつよめていることである。

第三には、この研究分野の対象範囲が個別の農業経営それ自体を対象とするものから小集団、大集団へ、あるいは生産から流通へと拡大してきているように見うけられることである。だが、個別経営にとっての「与件」それ自体を吟味するがごとき研究はみられない。

ひとくちに「与件」といっても個別経営ないしは経営群の働きかけだけではいかんともしがたい硬直的なものもあろうし、働きかけいかんでは変化させうる柔軟性に富む「与件」もありうると考えられる。この分野の研究対象がますます拡大し重層化してきている現在、諸々の「与件の性格」をいかにとらえるかという課題が大きくクローズアップされてきているといえよう。

以上、国立試験研究機関の研究課題一覧を概観してきた。これを取りあげた意図は、冒頭にもふれたように先輩の研究者達は何を研究課題としているのかという点を素朴に問うことであった。さいごに昭和41年度に初めて発刊されたという「農業経営および農村生活の研究の動向と課題」からこの発刊物の目的についての記述を引用しておきたい。

「研究者がそれぞれの専門分野における研究の現状と動向を適確に把握し、自己の研究の位置づけを行なうことが、研究を効率的に進める上で極めて必要であることは論をまたない。また研究者相互間においても研究内容についての理解が深まるならば、データーや成果の交換も一層容易となり、個々の研究成果がその研究部門における共通の財産として生きてくるであろう。」と。

注

- (1) 「分類指標」によると大分類の「地域性」が冒頭にあらわれているが、その内容をみると、個別の農業経営群の位置づけという側面をもちながらも「地域開発」との関係を重視してこの一覧表では順序を入れかえている。
- (2) ここでいう一覧には草地試験場と蚕糸試験場については掲載していない。

< 第 2 表 > 昭 和 4 2 年 度 の 研 究 課 題 一 覧

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
経営方式	経 営 計 算	農業会計の研究	奥谷松治	農 研
"	"	農業経営における市場対応のための管理会計	小冢龍男	"
"	"	農山村における肉用牛多頭飼育の実態と経済性	矢田芳男・中村勤史・松本翠	中 国
"	経 営 設 計	寒地農業の経営計画方法	川口民生・福田重光・堀内一男	北 海 道
"	"	家族農業経営の設計に関する方法並びに実証的研究	池田威	農 研
"	"	経営条件の変化に対応する経営設計	田口三樹夫	"
"	"	農業経営の診断・設計方法とその応用	今村幸生	"
"	"	農業経営設計における技術選択方法	児玉賀典	"
"	"	リスク及び不確定性に対する個別経営の対応	武藤和夫	"
"	"	農業経営および土地利用の研究のための電子計算機プログラムの開発	森島賢	"
"	労 働 力	農作業と圃場管理の関連に関する研究	吉岡正澄	"
"	"	畜産農場の配置計画に関する研究	中沢功	北 海 道
"	労 働 手 段	30PS級トラクターによる湛水直播技術体系の経済性	篠原隆治・鈴木洋・細井陽悦	東 北
"	"	大規模技術化経営基盤の成立条件の究明	向井三雄・八木宏典	農 事
"	"	機械化作業技術体系の設計と経済的評価	向井三雄・八木宏典	"
"	"	四国地域における農業地帯別機械化体系の研究	香川俊一・弓削勇吉	四 国
"	"	畑作機械化技術体系の経営的研究	沢辺恵外雄・鎌田友安	九 州
"	"	農業生産近代化施設と個別農家経営の対応に関する研究	川島鉄三郎・関正治・青木寿美男	北 陸
"	"	農用機械の経済性に関する研究	武井昭	農 研
"	"	トラクター並びに附属作業機の修理維持費および更新に関する調査分析	中西三郎・加藤明治・堀内一男	北 海 道

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
経営方式	労 働 手 段	大規模生産技術による営農方式に関する研究—中大型トラクター利用による畑作営農方式に関する研究—	木下幸孝・川越ほか2名	九 州
〃	〃	畑作における労働手段高度化に関する研究	林喜一郎	農 研
〃	〃	畑地かんがいによる農業経営の動態に関する研究	大野元・古村歆一	東海近畿
〃	その他(経営構造)	稲作経営の安定化に関する研究	五十嵐憲蔵・池田兼徳・沼辺敏和	北 海 道
〃	〃 〃	寒冷地稲作技術の展開方向確認調査	篠原隆治・鈴木洋・細井陽悦	東 北
〃	〃 〃	水田高度利用による農業近代化方式の研究	飯塚志郎・小河川一司・古村歆一	東海近畿
〃 〃	〃 (生産構造)	繁殖豚経営の経営経済的研究—子豚生産構造の変化とその経営的要因について—	吉岡功・新井肇	農 研
〃	〃 (生産構造・流通)	乳牛犢育成の生産構造と流通に関する研究	渡辺信夫	農 事
〃	〃 (経営組織)	経営組織の改善方式に関する研究	原野重義・鈴木ほか2名	東 北
〃	〃 (経営類型)	農業経営の類型分化に関する研究	南侃・滝本隆夫	九 州
〃	〃 (〃)	九州の山村農家類型に関する調査	南侃・坂梨敏行	〃
〃	〃 (農 法)	経営条件の変化に対する経営対応の比較農法的研究	川波剛毅	農 研
〃	〃 (〃)	わが国における畑作農法の展開に関する研究	野村浩士	〃
〃	〃 (経営経済)	施設園芸の経営経済的研究	加賀見宏	〃
〃	〃 (営農方式)	かんきつ主産地における営農方式に関する調査	川越義夫・坂梨敏行	九 州
〃	〃 (〃)	酪農経営展開に関する研究	阿部久盛・高橋昌子・吉川忠雄	東 北
〃	〃 (成立条件)	果樹園芸の経営経済的研究	平山莞二・川島東洋一	農 研
〃	〃 (〃)	北陸地域における酪農多頭化の成立条件に関する研究	斉藤英策・関ほか2名	北 陸
〃	〃 (〃)	四国地域における水田酪農の成立条件	香川俊一・野中修	四 国
〃	〃 (生 産 性)	酪農経営の生産性規制要因に関する研究	佐藤義則・阿部広雄	農 研
〃	〃 (成立安定化)	酪農経営の成立と安定化に関する研究	沼辺敏和・吉田英雄	北 海 道

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
経営方式	その他（近代化）	茶業経営の近代化に関する調査研究	大越篤	東海近畿
〃	〃（ 〃 ）	役肉牛飼育経営の近代化に関する経営経済的研究	阿部広雄・佐藤義則	農 研
〃	〃（ 〃 ）	寒冷地帯における養蚕経営の近代化に関する研究	原沢辰常	東 北
〃	〃（農地流動化）	農用地の流通化に関する経営的研究	倉島欣弥	農 事
〃	〃（利用方式）	公共草地の利用方式に関する研究	中沢功・宮沢香春	北 海 道
〃	〃（経 済 性）	乳牛多頭飼育技術の経済性に関する研究	篠原隆治・鈴木洋・細井陽悦	東 北
〃	〃（ 〃 ）	肉用牛の飼養経済と草地開発との関連に関する研究	堀籠謙	〃
〃	〃（ 〃 ）	公共草地の成立と管理に関する研究	宮沢香春	北 海 道
〃	〃（経営管理）	畜産経営における経営管理方法に関する研究	新井肇	農 研
〃	〃（労働組織）	協業（集団）酪農経営の労働組織化と生産性に関する研究	木下忠雄	〃
組織化	共同利用	開拓酪農経営における大型機械共同利用に関する研究	中西三郎・我妻重雄	北 海 道
〃	〃	東北農業における米作機械化の経済性	細井陽悦・篠原隆治	東 北
〃	〃	機械利用方式に関する研究	中西三郎・加藤明治	北 海 道
〃	〃	開拓酪農経営における大型機械の共同利用に関する研究	鈴木愛徳・工藤寿郎・原野重義	東 北
〃	〃	機械利用組織の設計と機械の経済的選定法の究明	向井三雄・八木宏典	農 事
〃	〃	水稻集団栽培の機能と組織化方式に関する研究	鈴木愛徳・長谷山俊郎	東 北
〃	受委託組織	稲作集団栽培・請負耕作の諸方式とその発展方向に関する研究	南侃・坂梨鷹元・滝本隆夫	九 州
〃	その他（協業化）	農業経営の協業化に関する研究	五十嵐憲蔵・川口民生・吉田英雄	北 海 道
〃	〃（ 〃 ）	協業経営の経営指標に関する研究	森嶋 隆	農 研
〃	〃（ 〃 ）	南九州畑作地帯における協業経営設定の実験的研究	沢辺恵外雄・鎌田ほか2名	九 州
市場対応	市場流通機構	ブドウ作経営における生産・流通の実態とその経済性評価	堀江幸比古・岩間泉	中 国
〃	その他（市場競争）	畜産物の市場競争に関する研究	小野誠志	農 研
地域性	地域動向	地域農業の動向予測と農業経営の対応に関する研究	児玉賀典・鈴木 ほか3名	〃

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
地 域 性	地 域 動 向	地域農業の動向予測と農業経営の対応に関する研究	鈴木恒雄・橋本 ほか 2 名	農 事
〃	〃	〃	西垣一郎・高坂 ほか 3 名	東 北
〃	〃	〃	五十嵐憲蔵・川口 ほか 3 名	北 海 道
〃	〃	〃	斉藤英策・青木 ほか 2 名	北 陸
〃	〃	〃	古村献一・ほか 3 名	東海近畿
〃	〃	〃	吉備鶴雄・矢田 ほか 6 名	中 国
〃	〃	〃	香川俊一・喜田 ほか 2 名	四 国
〃	〃	〃	木下幸孝 ほか 2 名	九 州
〃	〃	管内農業経営の地域動態	吉備鶴雄・伊香厚雄	中 国
〃	立 地 配 置	土地資源の立地配置に関する研究	吉川忠雄・那須野章	東 北
地域開発	基 盤 整 備	水田土地基盤整備の経営的評価	松永俊雄・永田恵十郎・大淵素行	中 国
〃	〃	土地改良および開田の諸方式と投資効果に関する研究	工藤寿郎・下村義人	東 北
〃	〃	上北地域における大規模開田にともなう水利に関する研究	青木真則	〃
〃	地 域 計 画	農村地域計画に関する研究	林健一	農 研
〃	〃	土地利用の経営的考察	鈴木福松	〃
〃	〃	地帯産業の経営と生産組織の構造および展開の解析	池善英 ほか 1 1 名	農 事
〃	〃	農山村開発方式に関する研究	田中洋介・佐々木東一	東 北
〃	〃	遠郊都市地帯における地域農業計画に関する研究	家永泰光・星野亀夫・小泉浩郎	農 事
〃	〃	山村振興に関する調査研究	西垣一郎・堀籠謙・橋本恵次	東 北
〃	その他（立地配置）	経営立地の組織論的研究	大谷巽	農 研
農村生活	農 村 構 造	農業経営の発展に伴う婦人労働と農家生活の変化	森嶋登紀子	〃
〃	〃	農業経営における婦人労働の類型と生活構造	満永光子	〃
〃	〃	家事労働の合理化に関する研究	阿部和子	〃

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
農村生活	農 村 構 造	水田単作農家における家事労働の合理化に関する研究	君塚正義・橋 ほか2名	東 北
〃	〃	農 家 の 消 費 構 造 に 関 す る 研 究	加勢川堯	農 研
〃	〃	農山村地帯における農業就業構造の変化が農業生産と生活とに及ぼす影響	保田篤・久保良雄	中 国
〃	〃	村落生活の近代化に関する研究	長谷川宏二	農 研
〃	〃	山村の社会的生活体制に関する研究	橋本恵次・君塚正義	東 北
〃	〃	農家集団化の社会学的研究	君塚正義・橋本 ほか2名	〃
〃	〃	新技術導入の農村社会に及ぼす影響	神谷一夫・君塚正義	〃
〃	生 活 環 境	農家の環境衛生に関する研究—農家のハエの発生源対策—	大塩行夫・池内まき子	農 研
〃	〃	農家の環境衛生に関する研究—有畜農家のネズミによる被害の防除対策—	伊藤博・大塩行夫・池内まき子	〃
〃	〃	農家の環境衛生に関する研究—生活環境改善における家畜多頭飼育の糞尿処理に関する研究—	相沢壮吉	〃
〃	〃	生活資材の市場構造に関する研究	広瀬武雄	〃
〃	その他(生活手段の技術)	食品調理および加工用水に関する研究	相沢壮吉	〃
〃	〃 (〃)	自給並に自家調製食品の栄養化学的研究—自家醸造味噌の品質に関する研究—	高木兵治	〃
〃	〃 (〃)	自給並に自家調製食品の栄養化学的研究—漬物類の品質に関する研究—	藤山玲子	〃
〃	〃 (〃)	農家建物の構造、設備に関する技術的研究	和田 忠	〃
〃	〃 (〃)	農家住宅に関する研究—集落構造と農家住宅との関連に関する研究—	下河辺千穂子	〃
〃	〃 (〃)	農村集落の生活用諸施設に関する研究	和田忠・阿部和子	〃
〃	〃 (〃)	農家の衣生活に関する研究	日浅治枝子	〃

＜第 3 表＞

昭和 51 年度の 研 究 課 題 一 覧

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
経営方式	経 営 計 算	農業経営の計数管理と経営情報のシステムに関する研究	小家 龍男	農 研
"	"	企業の家族農業経営の収益性に関する研究	成瀬 淳	"
"	"	高生産性畜産経営の発展要因と展開方法に関する研究	佐藤義則	"
"	"	卵価変動における採卵養鶏農家の経営対応に関する計量的研究	倉知哲朗	"
"	"	経営計画のための農産物需給分析	金井道夫	"
"	"	田畑作経営における部門・作目結合方式と規模限界に関する研究	佐々木東一・小池・堀籠	東 北
"	"	畑作地帯における経営方式形成とその比較分析	杉本文三	北 海 道
"	"	中国地域の酪農経営における資源利用の経済性とその適正化	福田重光	中 国
"	"	農業経営・農業地域分析手法の解明	吉岡正澄・鶴見・滝本	四 国
"	経 営 設 計	農業経営および経済のシミュレーション分析	森島賢	農 研
"	"	農業経営の設計および農業計画の理論的実証的研究	"	"
"	"	農業経営の計量的診断法に関する研究	諸岡慶昇	"
"	"	不確実性下での農業経営設計の実証的分析	上路利雄	"
"	"	肉用牛経営の発展方式に関する研究	原野重義・那須野 ほか 2 名	東 北
"	"	肉用牛生産の安定化に関する研究	大石 亘	北 海 道
"	"	酪農経営の長期経営設計に関する研究	木原義正	"
"	"	畑作地帯における作付変動要因に関する研究	黒河 功	"
"	"	地域別・経営形態別肉用牛経営の発展手順の究明	五十嵐憲蔵・宮沢・大石	"
"	"	北海道草地農業地帯における乳用雄子牛生産技術	五十嵐憲蔵・松原・木原	"
"	"	地域別・経営形態別肉用牛経営の発展手順の究明	福田重光・中村・樋口	中 国
"	"	営農集団の農業計画の方法と適用	堀内一男	北 海 道
"	労 働 力	集団生産組織における労働管理に関する研究	松永俊雄	農 研

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
経営方式	労 働 力	畑作物の生産と消費との対応に関する研究	満永光子	農 研
"	労 働 手 段	機械・施設利用料金の経営的分析に関する研究	向井三雄	農 事
"	農 地	水田土地利用の高度化と集団的対応	武井 昭	農 研
"	その他（経営主体）	「経営主体」の形成・発展に関する方法的実証的研究	田口三樹夫	"
"	"（技術構造）	畑作経営の技術構造に関する史的研究	吉田英雄	"
"	"（"）	酪農経営における飼料構造の研究	関沢孝 郎	農 事
"	"（"）	高生産性農業経営の技術構造と経営の展開方式	滝本隆夫・鶴見・吉岡	四 国
"	"（経営構造）	果樹作農家の経営改善に関する研究	石垣清人	農 事
"	"（"）	酪農経営構造の解析	児玉明人	"
"	"（"）	多頭養豚の生産構造に関する研究	渡辺信夫	"
"	"（"）	肉用牛経営の産地確立に関する研究	原野重義・那須野 ほか2名	東 北
"	"（生産構造）	肉用牛の生産構造に関する研究	宮沢香春	北 海 道
"	"（"）	畑作地帯における農業経営方式の規定要因に関する研究	弓削勇吉	九 州
"	"（"）	九州高原地帯における畜産経営の発展方式に関する研究	田中洋介・水上泰介	"
"	"（生産力構造）	畜産経営の生産力構造に関する研究	上原守一	農 研
"	"（農 法）	農法的視点からみた施設園芸経営の史的展開に関する研究	八巻 正	"
"	"（生産組織）	大規模稲作経営における農作業の展開構造に関する研究	川島鉄三郎	"
"	"（複 合）	水田地帯に関する経営複合化に関する研究	長谷山俊郎・関正治	東 北
"	"（発展手順）	九州地域における地域別・経営形態・肉用牛経営の発展手順の究明	田中洋介・水上・弓削	九 州
"	"（産地システム）	農業経営方式の分化と地域的統合に関する研究	田中洋介・水上泰介	"
"	"（地域動向）	稲作経営展開の過程分析	五十嵐憲蔵	北 海 道
"	"（地 域 性）	施設園芸の経営方式と地域性	白川俊信	"
"	"（制 度）	地域農業の制度的環境に関する研究	宮原幸則	農 事

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
経営方式	その他（経営管理）	畜産集団化における近代化施設の機能と管理運営に関する研究	吉岡 功	農 研
"	"（システム分析）	農業公共施設の最適投資計画決定のためのモデル分析	下村義人	東 北
"	そ の 他	果樹作経営の技術発展に関する研究	川島東洋一	農 研
"	"	肉用牛に関する経営的研究（立地条件・発展方式）	川波剛毅・田口・吉岡 ほか	"
"	"（規模拡大）	大規模稲麦作受託農家・集団における作業構造、土地利用、地力維持方式に関する研究	倉本器征・長野 ほか2名	農 事
"	"（専門化）	畑作地帯における経営単純化の条件と限界	鈴木愛徳	北 海 道
組織化	共 同 利 用	畑作経営単純化と生産組織	鈴木愛徳	"
"	"	稲作の生産組織化に関する研究	高橋信正・関正治	東 北
"	生 産 団 地	畑作物の生産流通技術に関する研究	鈴木福松 ほか	農 研
"	"	野菜・畑作物の生産流通に関する調査研究—茨城県鹿島地区—	永田恵十郎・星野亀夫・中島征夫	農 事
"	"	" 千葉県北総台地地区—	飯塚志郎	"
"	"	高能率施設園芸経営集団の組織化と管理方式に関する研究	堀籠謙・佐々木東一・小池俊吉	東 北
"	"	酪農経営展開に関する研究	原野重義・那須野 ほか2名	"
"	"	大規模水田酪農の成立条件に関する研究	堀尾房造	"
"	"	高能率施設園芸の経営集団組織化	五十嵐憲蔵・杉本文三・白川俊信	北 海 道
"	"	水田複合経営における集団組織化方式の研究	森嶋 隆	北 陸
"	"	高能率施設園芸に関する総合研究	高橋正郎・岩間泉・山本勝成	中 国
"	"	地方都市経済圏域における基幹作目の生産・流通組織の展開	鶴見智・滝本隆夫・吉岡正澄	四 国
"	"	四国地域における高能率施設園芸の経営集団組織化	吉岡正澄・鶴見智・滝本隆夫	"
"	"	高能率施設園芸（やさい）の経営集団化に関する研究	田中洋介・下舞 ほか3名	九 州
"	受 委 託 組 織	稲作生産組織の発展に関する研究	中島征夫	農 事
"	"	野菜・畑作物の生産流通に関する調査研究—葉菜類（秋冬レタス）—	林喜一郎・中島寛爾	九 州

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
組 織 化	その他（経営集団組織）	施設園芸の経営集団組織化方式研究	川口民生・光永紀正	農 研
"	"（"）	高能率施設集団の組織化・管理方式研究	鈴木福松 ほか	"
"	そ の 他	高能率施設園芸に関する総合研究	原田信行・石垣清人	農 事
"	その他（類型補完）	類型間補完による耕地利用合理化に関する研究	星野亀夫	"
"	"（計 画）	畜産における生産組織の存立条件と機能に関する研究	原田節也	東 北
"	"（生産組織）	稲作生産組織の再編、展開構造に関する研究	波多野忠雄	北 陸
"	"（経営集団）	北陸における高能率施設園芸（野菜）の経営集団組織化に関する研究	波多野忠雄・森嶋・今井	"
"	"（産地形成）	果樹作産地の展開と経営の発展方式—園芸産地形成に関する組織論的、地域論的研究—	高橋正郎・岩間泉	中 国
"	"（団 地 化）	やさい生産の団地化の過程と方式に関する研究	下舞隆夫・水上泰介	九 州
市場対応	市場・流通機構	野菜・畑作物の生産流通に関する調査研究—卸売市場調査—	飯塚志郎	農 事
"	"	農産物流通組織の機能に関する研究—青果物を中心として—	大越 篤	東 北
"	"	果樹作経営の市場対応及び流通合理化に関する研究	鈴木久栄・森 昭	中 国
"	"	野菜流通の再編に関する研究	鈴木久栄	"
"	集 出 荷 組 織	出荷流通施設と市場対応に関する研究	河野敏明	農 研
"	"	みかん作経営の市場対応と産地組織再編に関する研究	平井徹哉・坂梨麗元	九 州
"	産 地 形 成	蜜柑作の産地間競争に関する研究	黒瀬一吉	農 研
"	"	マーケティング活動の産地形成にはたす機能と役割に関する研究	佃 暢裕	"
"	"	露地野菜の産地育成に関する研究（2）東京産地野菜市場に対する供給産地の変動と東北産地	堀籠 謙	東 北
"	"	小産地の機能と形成	樋口昭則	中 国
"	"	やさい作産地の展開形態と発展方式	山本勝成	"

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
市場対応	産 地 形 成	野菜・畑作物の生産流通技術に関する総合研究	森 昭・鈴木久栄	中 国
"	その他（出荷計画）	野菜の生産・流通構造に関する計量的研究	門間敏行	東 北
地 域 性	地 域 動 向	そ業生産立地の地域性の研究	橋本久作	農 事
"	立 地 配 置	産業構造の地域的性格と農業経営の展開に関する研究	今井 健	北 陸
"	"	肉用牛繁殖経営の立地要因	松本 翠	中 国
地域開発	資 源 管 理	農林漁業空間における地域開発手法に関する研究	鈴木福松 ほか	農 研
"	"	農地の荒廃と利用再編に関する研究	篠原隆治	"
"	基 盤 整 備	土地改良投資と水田作経営の展開過程に関する研究	八木宏典	九 州
"	地 域 計 画	東北農業のモデル分析	高坂祐輔	東 北
"	"	山村振興に関する調査研究	阿部廣雄・堀籠 ほか 4 名	"
"	"	地域農業の計画とシステム	大谷 巽	農 研
"	"	農村土地利用計画のための土地分級の研究	辻雅男	"
"	"	地域農業再編成における土地利用計画に関する研究	喜田美登	"
"	"	農業地域計画に関する研究	松原茂昌	北 海 道
"	"	畑作物の生産流通に関する調査研究	五十嵐憲蔵・中沢 ほか 3 名	"
"	"	山村振興特別調査	岩館興一・松本翠・増淵隆一	中 国
"	"	地方中核都市における土地利用の再編計画	森 昭・大西緯	"
"	"	農山村地域の再開発方式—中国地域の農山村における農地造成と生活環境の整備—	岩館興一・松本 ほか 2 名	"
"	"	地域農業開発の方式に関する調査研究	波多野忠雄・森 嶋隆・今井健	北 陸
"	その他（地域再整備）	農村地域の再開発方式—地域開発都市と農村地域との再整備方式	関正治・青木真則・橋本恵次	東 北
"	"（水 利）	農業水利秩序の再編と稲作経営の展開に関する研究	青木真則	"
"	"（環境保全）	クリーク水田地帯における土地利用技術の経営、経済的評価	田中洋介	九 州

大 分 類	中 分 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者	所 属
農村生活	農 村 構 造	農家の消費構造に関する研究	広瀬武雄	農 研
"	"	稲作生産組織の形成と社会的基礎集団との関連に関する研究	久保良雄	"
"	"	家族農業経営における「いえ」の変容と村落構造の再編	長谷川宏二	"
"	"	農家小集団の形成過程に関する研究	外山隆夫	"
"	"	農村の生活水準指標に関する研究	君塚正義	"
"	"	広域営農集団の展開にともなう村落社会の再編	橋本恵次・南部博	東 北
"	"	農業における婦人労働の役割分析	佐藤チセ	"
"	生 活 環 境	農村における衛生害虫の発生制御に関する基礎的研究—蚊発生 の生物学的制御のための要因解析—	池内まき子	農 研
"	"	農村における衛生害虫の発生制御に関する基礎的研究—ハエ 類の環境抵抗としての動物の群集構造に関する研究(1)、(2)—	安田壮平	"
"	"	農村における衛生害虫の発生制御に関する基礎的研究—家畜等の 排出物を含む有機物中におけるハエ類天敵ダニ類の食性と増殖—	伊藤泰博	"
"	"	農業関係諸排水の浄化方法に関する基礎的研究—汚泥微生物の 浄化機能に関する研究 (1)	岡本玲子	"
"	"	同 上— (2)	林唯博・高木兵治	"
"	"	農業関係諸排水の浄化方法に関する基礎的研究—汚泥微生物の 菌体組成とその利用に関する研究—	高木兵治・林唯博	"
"	"	農村地域における生活環境の再整備方式	保田篤・工藤清光・森川辰夫	中 国
"	その他（農 家）	中国地域における農家の社会変動に関する研究	森川辰夫・工藤清光・保田篤	"

(参考)

分類指標項目一覧表

研究問題大分類	研究事項(中分類)	研究対象の作目別・地帯別
1. 地域性	1. 地域動向 2. 立地配置 3. その他()	a. 作目別 1. 一般 2. 水田作 3. 畑作 4. 果樹 5. 露地野菜 6. 花き・植木 7. 施設園芸 8. 酪農 9. 肉用牛
2. 経営方式	1. 経営計算 2. 経営設計 3. 労働力 4. 労働手段 5. 農地 6. 資金 7. その他()	10. 中・小家畜 11. 飼料作 12. 草地 13. 養蚕
3. 組織化	1. 共同利用 2. 生産団地 3. 受委託組織 4. その他()	14. 2～13の組合せ() 15. その他()
4. 市場対応	1. 市場・流通機構 2. 集・出荷組織 3. 産地形成 4. その他()	b. 地帯別 1. 都市農業 2. 都市近郊 3. 平地農村 4. 農山村 5. 山村
5. 地域開発	1. 資源管理 2. 基盤整備 3. 地域計画 4. その他()	6. 外国() 7. その他()
6. 農村生活	1. 農村構造 2. 生活環境 3. その他()	

注. なお分類にあたっては、「中分類は大分類の細目であるが、小分類は大・中分類に対してフリーな分類であり、小分類においてはa、bのいずれかの分類をとればよい。」と注記されている。